

ぼうさい

DISASTER MANAGEMENT NEWS

平成 22 年 11 月号
NOVEMBER

2010 No. 60



特集

防災情報を活用しよう

Active Human

大橋 未歩

[テレビ東京アナウンサー]



内閣府 (防災担当)
Cabinet Office, Government of Japan

日本の火山

Vol. 16

宮崎県・鹿児島県

きりしまやま

霧島山

雲海に浮かぶ島



雲海と霧島火山群

霧

霧島山は、宮崎県と鹿児島県の県境に広がる火山群の総称。最高峰の韓国岳（1700m）をはじめ、高千穂峰（1573m）、新燃岳（1421m）、御鉢（1420m）など大小20を越える山々がつらなる。

古くは天平時代の742年に大噴火（御鉢）の記録があり、これまでに御鉢と新燃岳で何度も噴火を繰り返している。1716年に起きた大噴火（新燃岳）では、火砕流が発生し、死者5名、負傷者31名、家屋600軒あまりが焼失した。

御鉢は、かつては「火常峯」と呼ばれ、過去の記録によると霧島火山群中もつとも活動的な火口で、規模の大きな噴火も数回起している。1923年に死者1名を出した噴火以降の活動は穏やかだ。新燃岳は、現在火山活動がやや活発化し、火口から半径1km以内は立ち入りが禁止されている。

高千穂峰の東にある都城盆地など、霧島山周辺では、しばしば深い霧が立ち込める。「霧島」という名は、山々が霧の海に浮かぶ島のように見える様子に由来するともいわれている。

霧島山

活動的で特に重点的に観測研究を行うべき火山に指定されている。平成22年5月6日、新燃岳に火口周辺警報（噴火警戒レベル2・火口周辺規制）を発表後、予報警報事項に変更はない（11月18日現在）。

ぼうさい 目次

平成 22 年 11 月号 (No. 60)

- 2 日本の火山 Vol. 16
霧島山 (宮崎県・鹿児島県)
- 3 防災ポスターコンクール受賞者の声
- 4 特集
防災情報を活用しよう
- 10 Active Human List 4
大橋 未歩さん [テレビ東京アナウンサー]
- 12 Disaster Management News——防災の動き
・平成 22 年度総合防災訓練
・新潟県中越地震から 6 年
・「第 4 回アジア防災閣僚級会議」が韓国仁川で開催
- 16 Disaster Report——災害報告
・鹿児島県奄美地方における大雨による被害状況等
- 19 やってみよう!家具固定 第 4 回 (最終回)
オフィスの対策について
ジャパンシステムサービス株式会社社長
全日本地震防災推進協議会会長
岩瀧 幸則
- 20 防災リーダーと地域の輪 第 4 回
子どもたちが自主的に取り組む「楽しい防災」
「水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊」事務局
吉野 くに子
- 22 防災 Q & A
職場ではどのような視点で防災を推進すればよいのでしょうか?
危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー
国崎 信江
一日前プロジェクト 第 15 回
- 23 記者の眼
時事通信社津支局 真島 裕



第 25 回 防災ポスターコンクール 防災推進協議会会長賞

小学 5・6 年生の部
愛知県 だれでもアーティストクラブ 6 年
山下 瑠唯 (やました るい) さん

受賞者の声

私の住む知多半島では、町ぐるみ、地域ぐるみで防災に力を入れているグループがいくつかあります。私の所属する絵画サークル「だれでもアーティストクラブ」でも教室が築百年以上たっている古い建てものだし、近くに海があるので、いざという時どうすればよいのか先生やみんなといつも話し合います。チリの地震で、津波警報が出た時はとなり町にも避難勧告が出たので少しドキドキしました。私の家族もいつかは来る、大きな地震に備えてあわてない様に日頃から訓練をしています。家具の固定や非常袋の準備を多くの人に呼びかけたいと思いこのポスターを描きました。



写真：
(財)消防科学総合センター 災害写真データベースから
<http://www.isad.or.jp/>

特集

防災情報を活用しよう

自 然災害による被害を軽減するため、様々な防災情報が発表されている。「防災情報はどのように知ることができるのか」、「情報を得たらどのように行動するのか」ということを私たちは知っているだろうか。

いざという時、“自分の身は自分で守る”ためには、災害が起きてから考えたのでは遅すぎる。日頃から、必要な防災情報と災害に対応した行動を確認しておくことが肝心だ。

今号では、地震、大雨、竜巻に関する防災情報について紹介する。

どうすれば知ることができるの

緊急地震速報は、テレビ・ラジオ、携帯電話、防災行政無線あるいは受信端末等を通じて知ることができる。中でも携帯電話は、約1億1千万台が普及する現代に

緊急地震速報とは、地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえた観測データを解析し、強い揺れが予想されていることを知らせるものだ（5頁図参照）。

「緊急地震速報」
地震から身を守るために



(写真提供 気象庁)



速報の報知音が鳴り響いた。現在、事前の設定なしで緊急地震速報を受信できる機種も多く販売されており、聞きなれない音に「驚いた」あるいは「何の音かわからず無視してしまった」といった声が聞かれた。今回の首都圏での強い揺れはなかったが、もし実際に強い揺れであったならば、驚いただけではせっかくの速報も役に立たない。携帯電話の緊急地震速報にすぐ気がつくよう、事前にホームページで報知音を試聴しておくことが大切だ。また一部の機種でも、報知音の試聴が可能だ（6頁図参照）。

いたら、画面を確認している時間はない。丈夫な机の下に隠れるなど、何よりもまず身を守る行動をとらなければならない。一方、震源から遠い場所では、強い揺れが届くまでに時間がかかるので、速報を見聞きしたら1分程度は警戒を続ける。また、地震による強い揺れが続くのは長くて1分程度。その間は身を守る行動を取り続ける必要がある（6頁図参照）。

速報の報知音が鳴り響いた。現在、事前の設定なしで緊急地震速報を受信できる機種も多く販売されており、聞きなれない音に「驚いた」あるいは「何の音かわからず無視してしまった」といった声が聞かれた。今回の首都圏での強い揺れはなかったが、もし実際に強い揺れであったならば、驚いただけではせっかくの速報も役に立たない。携帯電話の緊急地震速報にすぐ気がつくよう、事前にホームページで報知音を試聴しておくことが大切だ。また一部の機種でも、報知音の試聴が可能だ（6頁図参照）。

日頃からイメージし、実際に身体を動かしてみる

今回の首都圏での強い揺れはなかったが、もし実際に強い揺れであったならば、驚いただけではせっかくの速報も役に立たない。携帯電話の緊急地震速報にすぐ気がつくよう、事前にホームページで報知音を試聴しておくことが大切だ。また一部の機種でも、報知音の試聴が可能だ（6頁図参照）。

受信したらどうするの

今回の首都圏での強い揺れはなかったが、もし実際に強い揺れであったならば、驚いただけではせっかくの速報も役に立たない。携帯電話の緊急地震速報にすぐ気がつくよう、事前にホームページで報知音を試聴しておくことが大切だ。また一部の機種でも、報知音の試聴が可能だ（6頁図参照）。

すぐに「身を守る行動をとる」。

これが緊急地震速報を受信した時に必要な行動である。受信から強い揺れが到達するまでの猶予時間は短い。長くても数十秒程度。迅速な行動が肝心だ。テレビのチャイム音や携帯電話のブザー音を聞いたら、画面を確認している時間はない。丈夫な机の下に隠れるなど、何よりもまず身を守る行動をとらなければならない。一方、震源から遠い場所では、強い揺れが届くまでに時間がかかるので、速報を見聞きしたら1分程度は警戒を続ける。また、地震による強い揺れが続くのは長くて1分程度。その間は身を守る行動を取り続ける必要がある（6頁図参照）。

周囲の状況によって地震から身を守るための具体的な行動は異なってくる。いざというとき、あわてずに適切な判断と行動を行うためには、日頃から、どのように行動すべきかをイメージしておくことが大切だ。さらに、実際に身体を動かして身を守る行動を練習してみることも非常に有効だ。頭ではわかっていても、いざというとき、急

報知音を確認する

今年9月29日、福島県を震源とする地震が発生した際、首都圏等では携帯電話から一斉に緊急地震



地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して震源や地震の規模（マグニチュード）を直ちに推定。最大震度5弱以上と予想された地震の場合に、強い揺れが予想されていることを知らせる（資料提供 気象庁）

「大雨に関する 防災気象情報」

大雨による災害から身を守るために

大雨に関する防災気象情報は、警報を始めとして様々な情報がある。警報は、テレビやラジオ放送、市町村の防災無線放送が行われるほか、気象庁ホームページや国土交通省防災情報提供センターの携帯電話用サイトでは、市町村ごとに発表中の警報を確認できる。これらのホームページでは警報以外の情報も載っているので一緒に確認すると良いだろう。また、民間の気象事業者では、ホームページ、携帯電話、カーナビゲーションなどに向けた気象情報提供サービスを行っている。

情報の入手、危険性の分析、 身を守る行動

大雨などが発生したときに必要なことは、情報の入手、危険性の分析、身を守るための行動だ。そして日頃からできることは事前に準備しておくのがよいだろう。例えば、大雨の場合、居住する市町

村の警報・注意報のホームページに登録して、いざという時にすぐに見られるようにする、自宅から避難場所までの経路や周辺の崖や川、水路など危険な箇所を把握しておく、非常持ち出し袋を定期的点検して必要なものが揃っていることを確認しておく等の備えは、いざというときの適切な判断や迅速な行動に生きてくる。

また大雨の際には、最新の気象情報の入手とあわせて、周辺の崖や川の変化などにも注意を払う必要があるだろう。日頃と異なったことがあれば市役所などへ通報するとともに、もし危険を感じたら、避難所や建物の2階など安全な場所へただちに避難することが重要だ（8頁図参照／『ぼうさい』7月号 特集参照）。

「竜巻などの激しい 突風に関する気象 情報」

竜巻から身を守るために

竜巻は、比較的遭遇する機会が少ない気象現象ではあるが、日本のどこでも季節を問わず発生する。特に沿岸部での発生が多く確認さ

れ、関東平野や濃尾平野のように開けた平野部では内陸でも発生している。近年では、2006年9月に宮崎県延岡市、同年11月に北海道佐呂間町で発生した竜巻は、それぞれ死者を出す大きな災害を引き起こした。

「竜巻注意情報」と「竜巻 発生確度ナウキャスト」

竜巻に関する予報として、気象庁ホームページでは「竜巻発生確度ナウキャスト」が提供されている。竜巻発生の可能性がある地域を分佈図で表示。常時10分ごと、60分先までの移動の予測も含めて発表される。竜巻などの激しい突風に関する気象情報は、竜巻の発生の可能性に応じて段階的に発表されるが、「竜巻発生確度

ナウキャスト」は発生確度1や2となったら、竜巻が今にも発生する可能性がある状況だ。「発生確度2」が現れた地域（概ね県単位を対象）には気象庁から「竜巻注意情報」を発表、テレビやラジオの放



(写真提供：気象庁)

2007年4月4日に鳥取県で発生した竜巻

送あるいは気象庁ホームページで提供される。また、民間気象事業者でも携帯電話向けに竜巻に関する防災情報の配信を行っている。最新の気象情報を確認するとともに、空の状況に注意を払い、現場で適切な状況判断をすることが大切だ。竜巻は積乱雲（入道雲）の下で発生するので、発達した積乱雲の近づく兆しがあれば、注意情報等が出ていなくても身の安全確保にとめることが大事だ（9頁図参照）。

携帯電話向け情報提供サービスを行っている事業者一覧

気象庁ホームページ
ホーム▼天気の急変から身を守るために▼
予報業務許可事業者の携帯電話サービスについて
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/inf/keitai.html>

大雨に関する防災気象情報の入手先と効果的な利用方法

～1日前程度

大雨に関する
気象情報

○気象庁ホームページ
ホーム > 防災気象情報 > 気象情報

<http://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/>

大雨と突風に関する福岡県気象情報 第1号 ※イメージ

平成××年×月××日××時××分 福岡管区気象台発表

(見出し)
福岡県では、24日夕方から25日昼前にかけて、局地的に雷を伴った激しい雨が降り、筑後地方を中心に大雨となるおそれがあります。土砂災害、低地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風に注意して下さい。

(本文)
黄海にある前線を伴った低気圧は、25日朝にかけて対馬海峡付近を通過する見込みです。

このため福岡県では、24日夕方から25日昼前にかけて、局地的に雷を伴った激しい雨が降り、筑後地方を中心に大雨となるおそれがあります。また、南からの湿った空気の流れ込みにより、大気の状態が不安定となるため、落雷や竜巻などの激しい突風のおそれもあります。

<雨の予想>



行動のめやす

テレビ、ラジオや気象庁ホームページ等の気象情報に注意する

気象情報は、大雨の恐れがあるとき、台風が近づくときに、警報や注意報に先立って発表する。また、警報や注意報を発表している間にも、雨の状況や発生しそうな災害などを知らせる。

約半日前

大雨、洪水
注意報

○気象庁ホームページ
ホーム > 防災気象情報 > 気象警報・注意報

<http://www.jma.go.jp/jp/warn/>

地図上で市町村を選択すると、市町村ごとの情報を表示します ※イメージ

市町村ごとに発表します!

福岡県注意報事項
福岡、北九州地方では、24日夜遅くまで降水量、河川の増水に、25日昼前まで土砂災害に警戒して下さい。

北九州府県【発表】大雨(土砂災害、洪水)、洪水警報【継続】注意報

特別事項 土砂災害警戒、洪水警戒
土砂災害 警戒期間 25日昼前まで
注意期間 26日夕方にかけて、以後継続
洪水 警戒期間 24日昼前まで
注意期間 25日昼前まで
特別事項(雨量、水位)
洪水 警戒期間 24日昼前まで
注意期間 25日夕方にかけて、以後継続
雷 注意期間 25日昼前まで
特別事項 はん雷、竜巻

「大雨警報・注意報」は、浸水や土砂災害に注意・警戒が必要なおきに、「洪水警報・注意報」は、河川の増水やはん濫に注意・警戒が必要なおきに発表する。

行動のめやす

- 非常持ち出し品の点検、避難場所や経路の再確認などを行う
- 危険な場所に近づかない(崖、川、側溝など)

※「国土交通省防災情報提供センター」携帯電話用サイトからも気象情報、気象警報・注意報を入手できる

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>

約2～3時間前

大雨、洪水
警報

○気象庁ホームページ
ホーム > 防災気象情報 > 土砂災害警戒情報

<http://www.jma.go.jp/jp/dosha/>

長崎県土砂災害警戒情報 第1号 ※イメージ

平成××年×月××日××時××分
長崎県 気象海洋気象台 共同発表

【警戒対象地域】
豊島市・ 豊島郡市・

・印は、新たに警戒対象となった市町村を示します。

【警戒文】
<概況>
降り続く大雨のため、警戒対象地域では土砂災害の危険度が高まっています。崖の近くなど土砂災害の発生しやすい地区にお住まいの方は、早めの避難を心がけるとともに、市町村から発表される避難勧告等の情報に注意してください。

問い合わせ先
×××××××××× (長崎県土砂災害対策課)
×××××××××× (長崎海洋気象台 共同発表)

「土砂災害警戒情報」は、土砂災害の危険性が非常に高まったときに発表する。

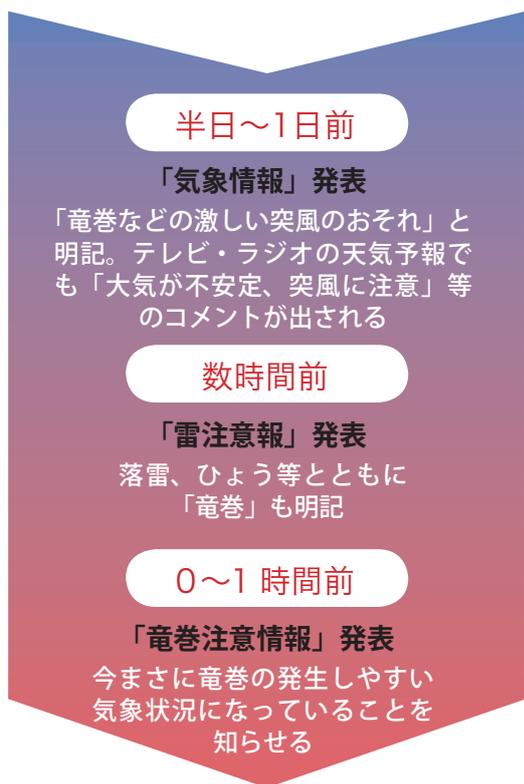
行動のめやす

- 危険を感じたら身の安全を図る(早めの避難。避難が困難・危険な場合は、建物の2階など、より安全な場所へ移動)
- 避難勧告などに注意する

危険度大

土砂災害
警戒情報

竜巻などの激しい突風に関する気象情報の入手先と効果的な利用方法



竜巻発生確度ナウキャスト
(常時 10 分毎に発表)

- 通常は何も表示されない
- 竜巻の発生しやすい気象状況となった時点で発生確度 1 や 2 が現れる
- 発生確度 2 となった県などには竜巻注意情報が発表される



気象庁ホームページ
ホーム > 防災気象情報 >
レーダー・ナウキャスト
(降水・雷・竜巻)
<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

今年11月12日12時06分に発表された竜巻注意情報

秋田県竜巻注意情報 第1号
平成22年11月12日12時06分 秋田地方気象台発表
秋田県では、竜巻発生のおそれがあります。
竜巻は積乱雲に伴って発生します。雷や風が急変するなど積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。
この情報は、12日13時10分まで有効です。

気象庁ホームページ
ホーム > 防災気象情報 > 竜巻注意情報
<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

※いつまで注意が必要か明記
(発表から約1時間が目安)

竜巻注意情報が発表されたら…

- 周囲の空の状況に注意を払う
- 「発達した積乱雲が近づく兆し」を察知したら、近くの建物の中に入るなど“身を守るための行動”をとる。
- 人が大勢集まる屋外行事や高所作業など、安全確保に時間を要する場合には、早めに避難を開始

「発達した積乱雲の近づく兆し」とは

- ◆ 真っ黒な雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- ◆ 雷鳴が聞こえたり、電光が見えたりする
- ◆ ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- ◆ 大粒の雨や「ひょう」が降り出す

竜巻が間近に迫ったら…

- すぐに“身を守るための行動”をとる

竜巻が間近に迫った時の主な特徴

- ◆ 雲の底から地上に伸びる漏斗状の雲が目撃される
- ◆ ゴーというジェット機のような轟音がある
- ◆ 飛散物が筒状に舞い上がるなどの現象が現れる等

身を守るための行動とは

頑丈な建物の中へ避難

- 避難するときは屋根瓦などの飛来物に注意！飛来物は凶器になる
- 避難できない場合は、物陰やくぼみに身を伏せる
- ✗ 車庫、物置、プレハブ（仮設建築物）への避難は危険

屋内でも窓や壁から離れる

- 家の中心部や窓の無い部屋に移動
- 窓、雨戸を閉め、カーテンを閉める
- 頑丈な机の下などで、頭と首を守る

(資料提供 気象庁)

部屋の物が飛び落ちてくる大地震 家具の配置には十分に注意して！

Active
Human

List 4

テレビ東京アナウンサー

大橋未歩さん



入社してから8年半、スポーツ番組を中心に担当し、いまはバラエティ番組などにも仕事の幅を広げているテレビ東京アナウンサーの大橋未歩さん。いつも元気で、飾らず、等身大の女性らしい姿を見せてくれる、局の看板アナウンサーです。

大橋さんは、実家がある神戸市の須磨区で阪神・淡路大震災を経験しています。

大地震の怖さ、そのときの思いなどを率直に語っていただきました。いざというときのために参考に、備えにつなげたいお話です。

おおし・みほ●テレビ東京アナウンサー。1978年生まれ。兵庫県出身。2002年に株式会社テレビ東京入社。これまで、スポーツニュースや2004年に開催されたアテネオリンピック、2010年のバンクーバー冬季オリンピック中継などを担当。現在は、「所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ！」（金曜・夜9:00～9:54）、「やりすぎコージー」（水曜・夜10:00～10:54）、「極嬢ヂカラ PREMIUM」（火曜・深夜0:12～0:53）などバラエティ番組も担当している。「今後は社会に貢献できるような仕事にも携わっていきたい」と、仕事の幅を広げることに意欲的。



撮影：相澤 正

少しでも興味があることには
トライする。後悔しないように
と思っているんです

中

学生のとときにバルセロナオリ
ンピックを観て感動し、「自

きません」と大橋さんは当時を振
り返る。

分もオリンピックに関わりた
い！」と、アナウンサーを目指した大橋
さん。なんと入社3年目にして、ア
テネオリンピックの中継に携わり、
早くもその夢を叶えた。そして次の
北京オリンピックの際は、2年前
から選手たちの取材に取り組んで、
彼らの努力が結実する瞬間を目の
当たりにし、感動で心がふるえる
ような毎日を経験できたそうだ。

恐ろしい地鳴り、鉄筋とコンク
リートがきしむ不気味な音。「マン
ションが倒壊したら死ぬんだ」と、
初めて死を意識した。

「部屋の電気がついていたので、
電灯が踊るように左右に大きく揺れ
ているところや、本が本棚から下に
スツと落ちるのではなくて、水平に
勢い良く飛び出すところが良く見え
ました。いまでもその光景をはつき
りと思いつくことができます」

多感だった10代での被災。家族
も自分の周囲にも、幸いにして命を
失う人はいなかったが、喪失感か
ら、何かを成すことに意味がある
のかと無気力に陥った時期があっ

よりも嫌い」という意欲的な彼女。
トレードマークのような明るい表
情が印象的なので、これまでの人
生も順風満帆に過ぎてきたよう
に思われがちだが、実は高校1年生

のときに阪
神・淡路大
震災に遭っ
ている。
「あまり
の揺れの太
きさに身動
きもできま
せんでし
た。机の下
に避難する
なんて、と
てもじゃな
いけれどで
きません」
と大橋さん
は当時を振
り返る。

「余震がおさまるまでのしばらくの間、漆黒の闇を窓から眺めていました。もう二度と太陽は出ないんじゃないかと思うような時間。でも、やっぱり朝は来たんですね。明けない夜はないように。自分ももう一度希望を持つとうと思いましたが、そしてアナウンサーになる夢を思い出した。

「被災したから頑張れた」というように、被災が良かったことと受けとめられてはいけな思っています」

「少
しでも興味がある
ことにはトライす
る、後悔しないよ
うにしようと思っ
たのは、被災の経験
から来る部分もあ
るかもしれませ
ん」

現在、自宅には
2匹のペットボト
ルを2ダース常備
している。ベッド
の周囲には家具や
重い物を置かない
ようにして、窓ガ
ラスは地震の際で
も安全性の高いも
のを使っている。

「地震のとき、父は、頭側にテレビを置いていたのですが、揺れが大きかったので、父の頭を飛び越えてテレビが倒れた。だからなんとか無事でした。でも倒れてきた物で押しつぶされた方も多かったです。家具の配置には気をつけなければいけないですよ」

被災経験者だからこそ語れる、大地震の詳細。こういった声をおろそかにしないで、できることは速やかに実践しなければと思わせる、大橋さんの体験談だった。

取材・文：柳澤美帆



担当番組「所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ！」に出演中の大橋未歩さん

平成22年度総合防災訓練

平成22年8月～10月に各地で総合防災訓練が行われました。



立川広域防災基地から自衛隊ヘリによる要員派遣・資機材搬送



静岡県庁別館（政府現地本部）への資機材搬入



政府現地警戒本部会議（本部長：内閣府副大臣）

I 政府現地本部訓練

前号では9月1日「防災の日」に実施した政府本部運営訓練などの概要をお伝えしました。

本号では、政府現地本部訓練、政府調査団派遣訓練、広域医療搬送訓練などの実施状況についてお伝えします。

静岡県と協力し、東海地震注意情報発表時から、警戒宣言発令時、東海地震発生時に至る一連の政府現地本部訓練を初めて本格的な実動訓練として行いました。

II 政府調査団派遣訓練

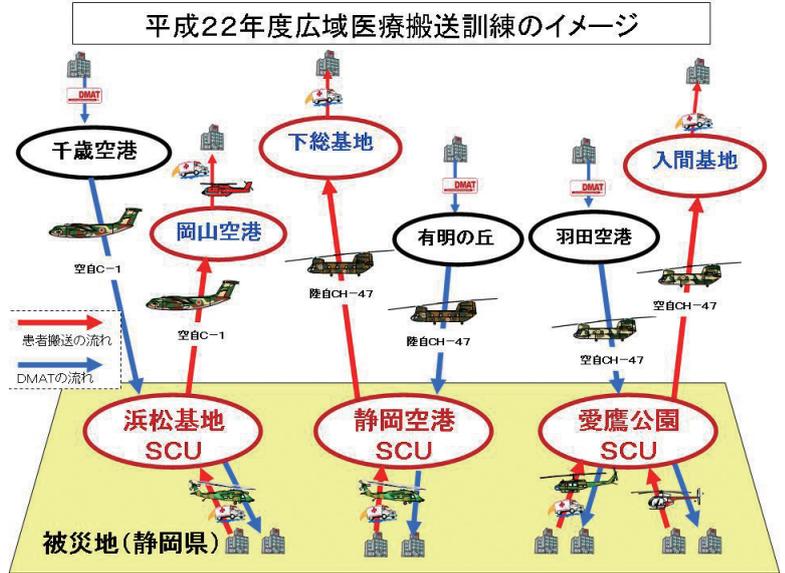
静岡県総合防災訓練の現地会場（伊東市）に内閣総理大臣を団長とし、内閣府特命担当大臣（防災）、防衛大臣、総務大臣等からなる政府調査団を派遣する訓練を行ったほか、九都県市合同防災訓練の現地会場（君津市）に内閣府大臣政務官を団長とする政府調査団を派遣する訓練を行いました。



内閣総理大臣を団長とする政府調査団（伊東市）



被災地内広域搬送拠点（静岡空港SCU）



III 広域医療搬送訓練

静岡県総合防災訓練と連携して、広域医療搬送訓練を実施しました。

広域医療搬送とは、被災地では対応が困難な重傷者を被災地外の医療施設へ搬送して高度な専門治療を行うことにより患者の救命を図る活動のことで、今年度は、静岡県を被災地と想定し、政府のほか、静岡県、北海道、千葉県、埼玉県、岡山県、関係係防本部、DMAT（災害派遣医療チーム）及び関係医療機関が参加し訓練を実施しました。

IV 大規模津波防災総合訓練

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波を想定し、津波による被害の軽減を目指して、10月16日（土）に、北海道釧路市をメイン会場として、大規模津波防災総合訓練を行いました。

V 原子力総合防災訓練

中部電力株式会社浜岡原子力発電所における原子力災害の発生を想定し、10月20（水）から21日（木）にかけて、総理大臣官邸、経済産業省緊急時対応センター、静岡県浜岡原子力防災センター等において、原子力総合防災訓練を行いました。



政府原子力災害対策本部運営訓練（官邸）に臨む菅内閣総理大臣、松本内閣府特命担当大臣（防災）



新潟県中越地震から6年

平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震から、本年で6周年を迎え、「10.23のつどい」が開催されました。

○被災と復興

新潟県中越地震の発生から、本年で6周年を迎えました。

平成16年10月23日17時56分に発生したこの地震は、最大震度7を記録したほか、複数の大きな余震を伴うものでした。新潟県では68名の尊い命を奪い、未曾有の被災をもたらしました。また、この震災では、一部損壊を含めると12万に及ぶ住宅が被害を受け、いまだ生活再建の途上にある方も残

されています。

これまで被災地では、ボランティアなどの協力を得て、地元住民や地元地方公共団体などが一体となって、復興が着実に進められてきました。

○10・23のつどい

平成22年10月23日の震災6周年の日には、

新潟県及び関

係市主催による

「新潟県中越大

震災6周年10・

23のつどい」が

長岡市で開催さ

れ、政府を代表

して阿久津内閣

府大臣政務官が

出席しました。

大臣政務官は、

来賓を代表し

て、「政府とし

ても、この震災の教訓を踏ま

え、被災者生活再建支援法の

改正、震災前からの復興計画

の作成の推進等を含む総合的

な防災対策を推進しておりま

す。こうした取組を通じ、国

民が安心していただける地域づくりに協力できるよう努めてまいります。」と挨拶しました。

また、一時全村避難した旧山古志村（現長岡市）の山古志小学校の児童32人が被災体験などをつづった歌「ありがとう」など2曲を合唱しました。



地震から6周年の「10.23のつどい」で来賓として挨拶する阿久津内閣府大臣政務官（10月23日）
写真提供：新潟県



山古志小学校（現長岡市）児童32人の合唱（10月23日）
写真提供：新潟県

「第4回アジア防災閣僚級会議」が 韓国仁川で開催



ハイレベル・ラウンドテーブルで議長を務める東内閣府副大臣

2010年10月26日から28日の間、韓国仁川において、韓国政府及び国際連合国際防災戦略（UNISDR）が主催して「第4回アジア防災閣僚級会議」が開催されました。

この会議は、国連防災世界会議（2005年1月、兵庫県神戸市）で採択された「兵庫行動枠組2005-2015（HFA）」について、アジア各国での実施状況や推進方策を議論するとともに、アジアにおける災害被害の軽減のための取組みの成果と課題を総括するもので、アジア太平洋各国の閣僚級をはじめ53カ国の政府関係者、国際機関、地域機関及びNGO等から約

900名が参加しました。「気候変動適応を通じた災害リスク低減」を会議全体のテーマに議論が行われ、最終日には、「気候変動と防災に関する意識啓発と能力開発」、「気候及び災害リスク管理に関する情報、技術、優良事例、教訓の共有」、「気候変動適応策と防災対策での環境配慮の促進」等に参加各国、各機関に呼びかける「仁川宣言」を採択して、会議は閉幕しました。

日本政府からは、東祥三内閣府副大臣が代表として出席し、「気候変動と防災に関する意識啓発と能力開発」を議題としたハイレベル・ラウンドテーブル1において、韓国消防防災庁のパク・ヨンス庁長とともに、共同議長を務めました。公式ステートメントにおいて、我が国におけるコミュニケーションによる防災の取組みや防災教育について紹介するとともに、災害被害軽減に向けて適時的確な避難を実現するため、コミュニケーションへの迅速な情報伝達に向けた国際セミナーの開催を検討している旨表明しました。また、パク

韓国消防防災庁長やマーガレッタ・ワルストローム国連事務総長特別代表（防災）と今後の防災分野で



各国代表等による集合写真

の協力等について個別に会談を行いました。

本年は、HFAの中間年にあたり、UNISDRによるHFA中間レビュー等、HFAの更なる推進に向けた取組みが行なわれています。内閣府としても、HFAのさらなる推進に向けて取り組んでいくこととしています。

鹿児島県奄美地方における大雨による被害状況等

国内災害

10月中旬から下旬にかけて前線が鹿児島県奄美地方に停滞し、記録的な大雨による甚大な災害が発生しました。ここではその大雨がもたらした被害状況等をお伝えします。

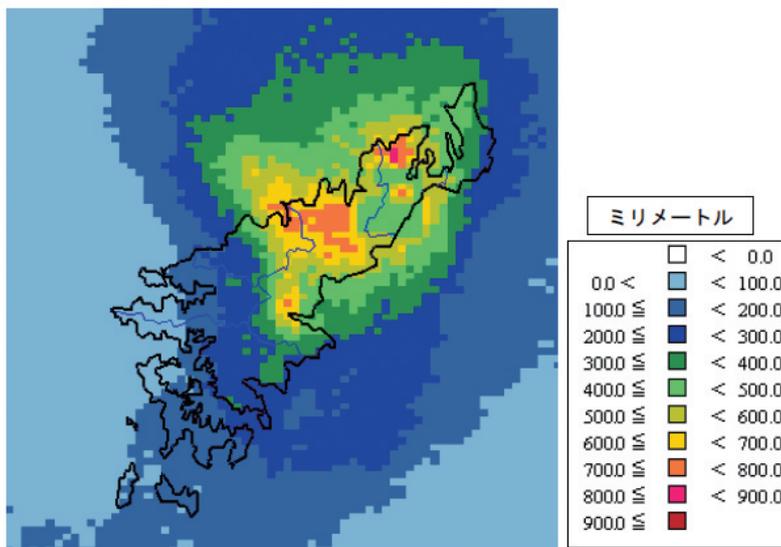
大雨の状況

10月18日から21日にかけて、前線が奄美地方に停滞し、この前線に向かって南から湿った空気が流れ込んだことにより、大気の状態が不安定となりました。この影響で、奄美地方の一部では10月20日に一時間120mm以上の猛烈な雨が降りました。奄美市名瀬^{なせ}では10月20日23時20分までの24時間で648・0mmとなる観測史上1位の降水量を記録するなど、18日21時の降り始めからの降水量が800mmを超え、奄美地方の年間平均降水量の四分の一を超える量の雨がわずか三日間の間に集中して降るといって、記録的な大雨となりました。

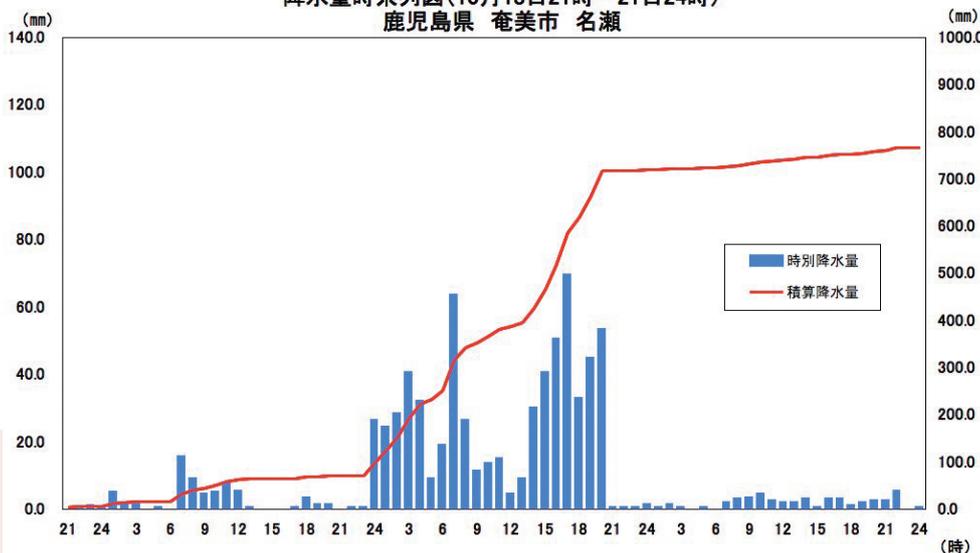
大雨による被害の状況

この大雨により、河川のはん濫や土砂災害が発生し、奄美大島内の市町村を中心に、死者3人、住家全壊10棟、半壊479棟、床上

10月20日0時から24時の降水量（解析雨量）



降水量時系列図(10月18日21時~21日24時)
鹿児島県 奄美市 名瀬





大雨による土砂崩れ現場（龍郷町）



大雨による道路陥没現場（奄美市）

浸水119棟、床下浸水767棟等の被害が発生しました（11月26日現在）。

通信関係では停電や浸水の影響などにより、携帯電話の多くの基地局が停波、固定電話の一般線や専用線の不通が発生するとともにテレビジョン放送中継局が停波しました。また、併せて延べ約2万5百戸で停電が生じるなど、ライフライン関係の被害により島内における住民生活に多大な影響が生じるとともに、被害状況の迅速な把握に困難をきたしました。農林水産関係では農作物、農地・農業用施設及び林道などに多数被害が生じ、被害総額は約39億円に達しています（11月19日現在）。道路関係では、国道及び県道において最大時34区間の道路で通行止めが発生しました。また、鹿児島県の調べ（11月17日現在）によれば公共施設等の被害総額は約124億円に達しています。



避難所の様子（奄美体験交流館）



避難されている方々を激励する東内閣府副大臣

避難指示・避難勧告の状況

避難指示が、龍郷町及び天城町の273世帯、681人に発令されたほか、避難勧告が、龍郷町及び奄美市など合計で1365世帯、2819人に発令されました。この避難指示・勧告や自宅の被災などを受け、奄美市の奄美体験交流館では最大で約150名の方が避難されて昼夜を過ごされました。また、児童生徒などが自宅に帰ることができずに小中学校で待機する事例も生じました。

政府の主な対応等

10月21日に第1回関係省庁災害対策会議を松本内閣府特命担当大臣（防災）出席の下に開催し、政府・鹿児島県・被災自治体が一体となって災害応急対策に全力をあげ、更なる被害の拡大の防止に万全を期すること、孤立者の安全確保及び救出に全力をあげるとともに、避難先の安全と安心についても十分確保することなどの事項を確認しました。第1回以降、11月1日までの間に、松本内閣府特命担当大臣（防災）、東内閣府副大臣、阿久津内閣府大臣政務官などの出席の下で計5回の災害対策

会議を開催しました。このように継続的に災害対策会議を開催することにより、関係省庁間で災害応急対策及び災害復旧に関する情報を共有するとともに、対策の更なる推進のための連携強化を図りました。

また、10月30日に松本内閣府特命担当大臣（防災）、10月23日に東



被災状況を調査する松本内閣府特命担当大臣（防災）

内閣府副大臣が現地調査を実施しました。

内閣府は、鹿児島県大島支庁に衛星通信回線を設置して、政府

現地関係機関災害対策会議（奄美市）と関係省庁災害対策会議（内閣府）との間でテレビ会議を実施するとともに、中央省庁へライブ配信するなど、中央防災無線網を活用して情報の共有を図りました。

鹿児島県は10月20日を適用日として奄美市、龍郷町及び大和村に災害救助法を適用したほか、被災者生活再建支援法に基づく支援金支給制度を奄美市及び龍郷町に適用しました。

なお、この災害は激甚災害に指定され、公共土木施設や農地等の災害復旧事業に係る補助の特別措置等が適用されました。

政府現地連絡対策室の設置

10月27日からは内閣府職員及び関係省庁職員で構成する政府現地連絡対策室を鹿児島県大島支庁内に設置して現地の情報収集や鹿児島県・地元市町村との調整にあたりました。また、11月17日に内閣府に奄美豪雨復旧対策班を設置し、引き続き被災地の復旧を支援しているところです。



政府現地連絡対策室の様子



中央防災無線網を活用したテレビ会議（奄美⇄内閣府）



テレビ会議により訓示する阿久津内閣府大臣政務官

やってみよう！ 家具固定

第4回（最終回）～オフィスの対策について

勤め先の事務所や買い物で立ち寄るコンビニなど、意外と身近にあるコピー機やスチール棚は、大地震が起きたときに凶器になるかもしれません。固定が難しい物は専門家に相談しましょう。



平日であれば大変な事に...



1トン以上の金庫も跳んでいる

最近の大きな地震は、偶然にも、土曜
日、日曜日、祭日に起こり、オフィ
スにおいて、大きな人的被害は発生してい
ません。

しかし、どの地震でも、オフィス内ではあらゆる物が跳んだり、重たいコピー機が暴走して壁に激突して大きな穴を開けたり、もし平日で勤務中であつたなら、大変な大惨事が発生していた事でしょう。人的な被害が少ないのは、建物が安全だつたからではなく、休日で、そこに人が居なかつただけです。スチール製の書庫や、1トン以上もある大金庫が、何メートルも飛んで横倒しになっていたり、信じられない光景を何度も見て来ました。

地震発生時に管理責任者は何を守るの

か、前もって決めておくことが大変重要
です。

つまり、人か物か情報なのか、機能なのか。物的損失は買い替えが可能ですが、人はかけがえの無い存在であり、あらゆる手段を講じて守らなければいけません。

オフィス内の書庫やロッカー、コピー機等の転倒防止対策は、かなり高度な技術が必要です。

まず第一に壁が間仕切りになつていて、その多くは固定するだけの強度が不足しています。必然的に床で固定することになります。現在のビルはOAフロアーの下（躯体）に固定しなければいけません。

これを社内の方で出ればベストなのですが、一般的には難しいと思います。安全を重視するならば、やはり専門家に相談される方が無難ではないでしょうか。



スチール書庫の固定方法（一例）



重なっている部分は連結する

防災対策を考慮する時の鉄則は、「コストが高い安い」を基準にはいけないということです。基準はあくまで、より安全であるかどうか物差しであるべきです。安全対策にやりすぎは有りません。



ジャパンシステムサービス株式会社社長
全日本地震防災推進協議会会長
岩瀧 幸則（いわたき ゆきのり）
阪神淡路大震災で被災者となり、屋内対策の重要性を提唱するため、静岡市に移住。

「やってみよう！家具固定」を執筆いただいていた岩瀧幸則氏は、7月にご逝去されました。私たちの最も身近な生活空間における防災の備えに、貴重なアドバイスをいただいた岩瀧氏に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

子どもたちが自主的に取り組む「楽しい防災」

河川での水遊び活動をきっかけに、防災活動を始めた山口県防府市の「水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊」。子どもたちの自主的な取り組みが全国的にも高く評価される中、地元で豪雨災害が発生。現実の災害を体験したことで子どもたちの防災意識がさらに高まった。



川での流され方などの安全講座を受けた後、ライフジャケットを着用して佐波川で実際に川流れを体験。この日は、幼稚園児から中学生まで、幅広い年代の子供たちが参加

山 山口県東部、瀬戸内海に注ぐ佐波川沿いに広がる防府市。市内のFMラジオ

り組み始めました」

才局の番組に集まった小学生を中心に2005年に結成された「水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊」は、「1・17防災未来賞『ぼうさい甲子園』」入賞の常連団体として、防災関係者の間では広く知られている。

「当初は、防災の『ぼ』の字もなかったんですよ」と当時を振り返るのは、事務局の吉野くに子さん。「川遊びの企画に参加してくれた地域のお年寄から、昔は暴れ川で何度も洪水が起きたという話を聞いて、子どもたちが『川も危険なんだ。災害について知りたい』と興味を持ったようです。2007年ごろから防災活動に取

るためにジオラマをつかって河川氾濫の様子を再現。「紙粘土で作って好きな場所に置いてみたから、高台に置いた子の家は無事で、川の近くの家は見事に流されてしまい、みんな、洪水の怖さを実感したようでした」

この時の活動を「1・17防災未来賞『ぼうさい甲子園』」に応募したところ、見事に小学生の部で大賞を受賞した。吉野さんによると「入賞できたら賞金で遊びに行こう、と気軽に応募したのに、予想外に良い賞をもらってしまっ

て。ほめられたことに喜んで『防災は楽しいね』と活動にもさらに熱が入るようになりました」

その後も「楽しい防災」を合言葉に子どもたちが自主的に企画を考えて活動を継続。避難訓練で出会った聴覚障害者との交流から、被災時にお互いにコミュニケーションが取れるような「ぼうさいサイン」も考案した。

しかし、2009年7月、防府



佐波川流域防災訓練に参加し、聴覚障害者の方々と協同で開発した「ぼうさいサイン」を実際に使ってみた



ジオラマに水を流し、河川氾濫の様子や破堤後の復旧について学習



災害を語り継ぐためにアカザ隊がつくった絵本『防府の心みんなの心』から

防災リーダーの一言

ア カザ隊にはリーダーはいません。活動の主体はあくまでも子ども達で、われわれ大人はサポートに徹しています。

活動内容も、全て子どもたちが決めます。だれかが何か面白いことを思いついたら、他のメンバーに声をかけて集まります。よく「隊員は何人ですか」「毎週何曜日に集まりますか」と聞かれるのですが、子どもたちの気分で変わるため、答えられないのです。緩やかな団体だからこそ、ここまで活動を続けることができたと思いますし、子どもたちにも防災意識が根付いたのではないかと考えています。

実は、アカザ隊の活動資金は、表彰での賞金と、活動計画を認めてくれた行政からの補助で全て賄っています。賞金をもらおうと、みんなで遊びに行くことばかり考えているようなメンバーですが、被災後の「ぼうさい甲子園」グランプリの時だけは「これは使えない」と言っていました。地域の聴覚障害者団体のためにプロジェクターを購入して寄贈したほか、今年度の活動予算として使うことにしています。ですから、今年はみんな気合が入っています。



吉野 くに子 (よしの・くにこ)
「水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊」事務局

隊員の子どもたちは「現場で何もできなかった自分たちには受賞の資格がない。辞退したい」と言い出した。吉野さんやまわりの大人たちが「風化させたくないなら、授賞式に出て自分たちの気持ちを

伝えて」と説得したという。壁を乗り越えた子どもたちは、防災意識を高く持って、新たな活動に取り組んでいる。

(写真提供 「水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊」
取材・文：河崎美穂

市を集中豪雨が襲い、土石流などで死者19人などの被害が発生。現実の災害に直面して状況が変わったという。

「みんなボランティアへの参加を希望したのですが、年長でも中学生ですから、保護者同伴でなければムリと断られてしまいました。災害発生から1週間以上たって、ようやく出来た仕事はボランティアが利用する駐車場の整理と、土のう作りの手伝いだけ。それまでが自信满满だっただけに、『自分たちは何もできない』と落ち込んでいました」と吉野さん。

一時は解散も思いつめたア

カザ隊が復活したのは、災害を風化させたくないという強い気持ちだったという。

「復旧活動が続いているのに、死者も出た地域の近くで何事もなかったように笑っている人がいることにショックを受けたそうです。災害を覚えておいてもらうために、自分たちで何ができるかを考え、災害の現場で役に立てなかった悔しさを全て注ぎ込んで災害発生から復旧活動までをまとめた絵本を作りました」

さまざまな思いのこもった絵本は高く評価されて、ぼうさい甲子園でグランプリを獲得。しかし、



職場ではどのような視点で防災を推進すればよいのでしょうか？

職場に求められるのは職員や利用者（顧客、患者など）の生命の安全確保と二次災害の防止、事業継続のための計画と管理、地域貢献・地域との共生です。

防災 Q & A

職

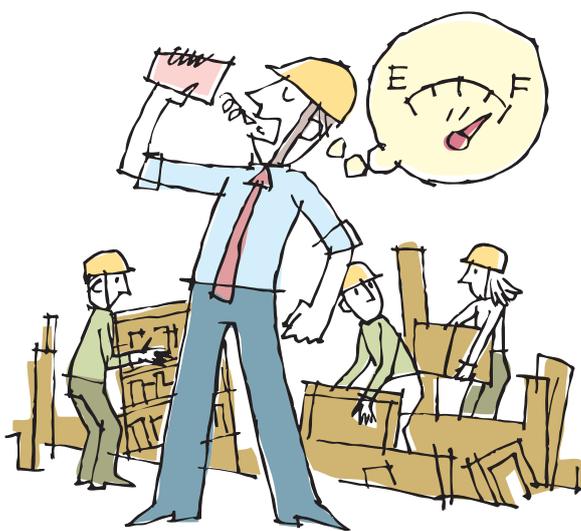
場の防災を考えるにあたり、業務上危険な場所に立ち入る、または危険物を扱う環境にあるか、利用者の収容規模や利用形態（一時的か、滞在するものか）など、それぞれの職場において、その事業内容、規模、職員や利用者が存在する施設環境、地域特性等に適合した対策が望まれます。

事業のいち早い再開に向けては、災害時に利用者が求めているもの、継続すべき商品・サービスはなにかといった優先業務の明確化や、業務を支えるために不可欠な経営資源確保の手段

A

と、応急的な施設・資機材の補修・復旧計画を考えます。社会情勢により取引先に変化があった場合には災害時の事業継続に影響がないか確認することが重要です。

また、「事業継続・地域貢献・地域共生」活動に欠かせない対策のひとつに食の確保があります。ライフラインの断絶で自宅でも地域でも満足に食事を得られない職員に対して、業務上必要なエネルギーを確保することを忘れてはなりません。十分な栄養を確保できなくては業務に支障が出るだけでなく職員に心身に影響を与えます。社会的に責任ある立場にあり、災害時に地域に貢献することが



イラスト：井塚 剛

期待されている人にこそ、簡易な食事ではなく能力を継続的に発揮できる機能的な食事を提供することの重要性を認識しましょう。

危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー
国崎 信江（くにさき のぶえ）

阪神・淡路大震災を機に、女性の視点を生かして自然災害から子どもを守るための研究を始める。防災・防犯関連の著作、講演のほか、内閣府・文部科学省など多くの防災関連の専門委員も務めている。

もし、一日前に戻れたら…

シリーズ

「一日前プロジェクト」 第15回

平成 19 年新潟県中越沖地震（平成 19 年 7 月）

「あ、地震だな」とは思ったけれど

～すぐに机の下にもぐるべきだった～

（40代男性会社員）

休日出勤をして自分の席にいました。突然ガタガタと揺れて、「あ、地震だな」とは思ったんですけど、あそこまで大きくなるとは思ってなくて、そのまま椅子にすわっていました。でも、そのうちどんどん揺れがでっかくなって、最後は机にしがみつこうになりました。

会社として、前回の新潟県中越地震以降、避難誘導では、各自ヘルメットをかぶって、まず2階のメンバーを集めて、一緒に下までおいて外の駐車場に避難するというようになっておりました。それで、当時2階にいたメンバーに、

「ヘルメットをかぶって下におりるぞ！」と叫ぶのですが、腰がぬけたのか、なかなか来ないんです。だんだん叫ぶ声だけ大きくなって、「もう！」っていう感じで待って、そのメンバーと一緒に避難しました。揺れている時間は結構長かったと思います。今思えば、落下物から身を守るためにも、すぐに机の下にもぐらないといけなかったですね。

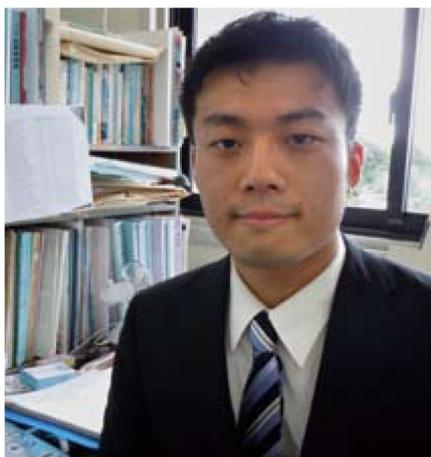


今思えば、落下物から身を守るためにも、すぐに机の下にもぐらないといけなかったですね。

普段からの意識が大事

この11月より三重県の津支局に異動することになった。東京で引き継ぎを行っていたとき、新たに防災取材することになった同期の記者は、「防災については、避難訓練の経験くらいしかない」と語った。実を言うと、私が今年の5月に防災の取材を始めたときも同じような経験しかなかった。そのような状態から約半年という短い取材期間であったが、最も印象に残った「災害に対する普段の意識」について二つ書いておこうと思う。

一つは、「災害による被害をいかに軽減するか」である。震災被害にあった方たちの体験談をまとめた本の中で「震災以降、寝室には何も家具を置かなくなった」という変化が語られていた。私たちが「地震は怖いもの」と思うのは、地震が発生することではなく、地震を原因とする家屋の倒壊や火災による被害などではないか。そうであるならば「地震が発生したら、身の回りにはどのようなことが起こりうるのか」と想像力を働かせ、対策を取れば、過度に地震を恐れる必要はなくなる。これはもちろん他の災害にも当てはまることだ。



時事通信社津支局

真島 裕

(ましま・ゆう)

2010年4月時事通信社入社。内政部配属。
11月より津支局勤務。

次に「災害後の生活再建」について。地震による被害を最小限に食い止めた後は、元の生活に復帰することが必要で、これが最も大切かつ難しいことだ。経済的な観点では、公的な支援制度である激甚災害制度や被災者生活再建支援制度はもちろん重要だが、個人としても地震保険に加入するなどの備えを考える必要がある。また、継続的に精神的なケアを受けられる体制の拡充や、新たな生活環境に移った人を地域から孤立させないような体制確立も今後の取り組みの課題だ。

最後に自戒を込めて。先日、緊急地震速報が配信された。とつ

さの事態に「地震発生時、防災担当記者が取るべき行動は何？」と理解していたつもりも段取りが頭から抜け、あたふたしてしまいました。それを見ていた先輩記者から「まずは、君が落ち着きなさい」と笑いながらたしなめられてしまった。いざ何かが起こってからでは、時すでに遅し。「普段からの意識が大事」。防災の取材を通して学んだことを転勤先でも忘れないようにしたい。

『ぼうさい』11月号 [No. 60]

平成22年11月30日発行 [隔月刊]
http://www.bousai.go.jp/kouhou/

●編集・発行

内閣府（防災担当）予防参事官室
〒100-8969
東京都千代田区霞が関1-2-2
（中央合同庁舎5号館3階）
TEL: 03-5253-2111（大代表）
FAX: 03-3581-8933
URL: http://www.bousai.go.jp

●編集協力・デザイン

株式会社ジャパンジャーナル
〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町2-4-6
エフアンドエフロイヤルビル7F
TEL: 03-5298-2111（代表）
URL: http://www.japanjournal.jp

●印刷・製本

昭栄印刷株式会社
printed in Japan

『ぼうさい』1月号は平成23年1月末発行の予定です。

編集後記

10月下旬の記録的な大雨により、奄美地方で大きな被害が発生しました。土砂災害やライライン被害だけでなく、たんかんや、すもも

など、特産物にも大きな影響が出ました。

そんな中でも、奄美には「結（ゆい）の精神」という助け合いの精神が今なお根付いており、住民の方々が協力して復旧作業に当たられました。

あらためて地域のつながりの大切さを感じたところであり、自助・共助・公助が一体となった防災を目指していきたいと思っております。（の）

『ぼうさい』購読のご案内

本誌の購読をご希望の方は、(株)ジャパンジャーナルまでお申し込みください。お申し込みは電話、FAX、メールにて承ります。
TEL: 03-5298-2111 FAX: 03-5298-2112
E-MAIL: bousai@japanjournal.jp
1冊300円（税込み）
※送料別途：1～5冊80円
5冊以上160円または実費

ご意見・ご感想を、内閣府（防災担当）広報誌「ぼうさい」担当宛で、はがき、FAX、メールにてお寄せください。



防災とボランティア週間

1月15日～21日

防災とボランティアの日

1月17日



目的

災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図ることとされています。

実施内容

災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動の普及のための講演会、講習会、展示会等の行事が、国、地方公共団体、関係団体等の緊密な協力のもと全国的に実施されます。



イラスト：井塚 剛

『防災とボランティアのつどい』を開催します。

『共助』（地域の防災活動や防災ボランティア活動など）に取り組む方々の間で、全国各地の多様な取組を共有し、みんなで支えあう新たな『共助社会』に向けて、今後のより効果的な活動の展開につなげていくことを目的としています。

日 時：平成23年1月23日（日）

場 所：東京都江東区有明3丁目 有明の丘基幹的広域防災拠点施設

本週間と、その前後に開催される「防災」と「ボランティア」に関する取組を掲載します。

<http://www.vol-week.go.jp/>